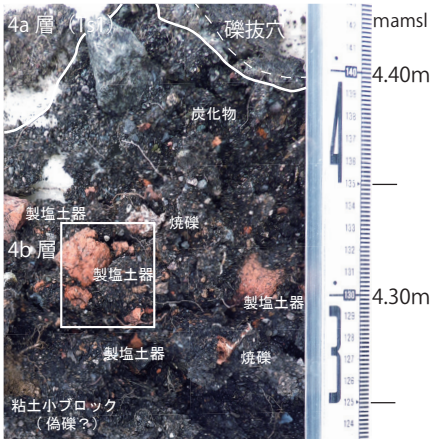
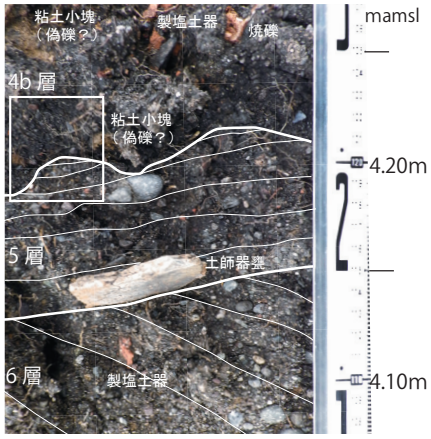
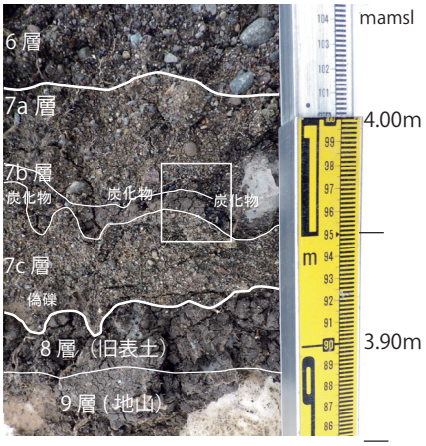
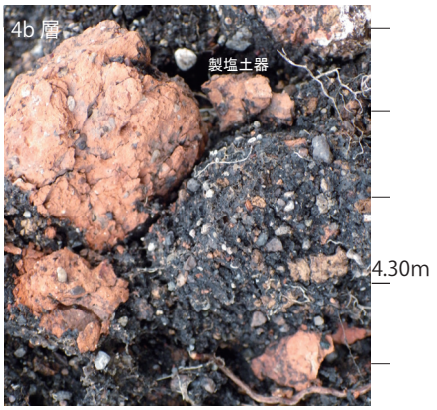
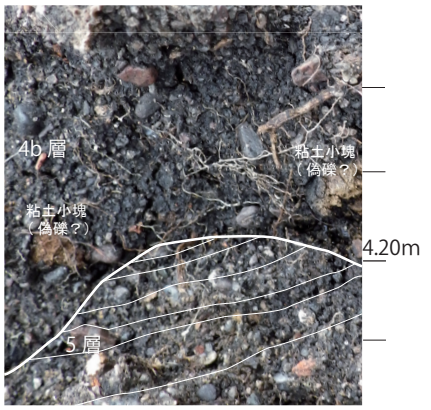
口絵３：山形県酒田市飛島西海岸製塩遺跡の考古学的調査

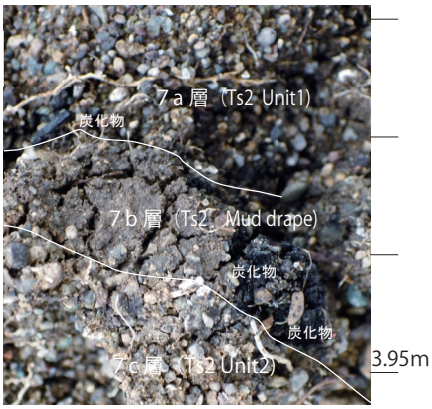












4a 層（Ts1）は扁平礫が並ぶ。4b 層中位の製塩土器は細かく砕け、製塩土器微小片が多量に含まれている。割れ口は新鮮で、ほとんどの土器片は立っている。４b 層上部は製塩土器片はほとんどなく、炭化物が含まれている。。

4b 層底面は凹凸をなし、５層を侵食して堆積している。4b 層下部は製塩土器をほとんど含まず、4b 層下部は粘土小塊（偽礫？）を疎らに含んでいる。５層はわずかに傾いて堆積しており、やや摩滅した土師器甕破片等が含まれている。

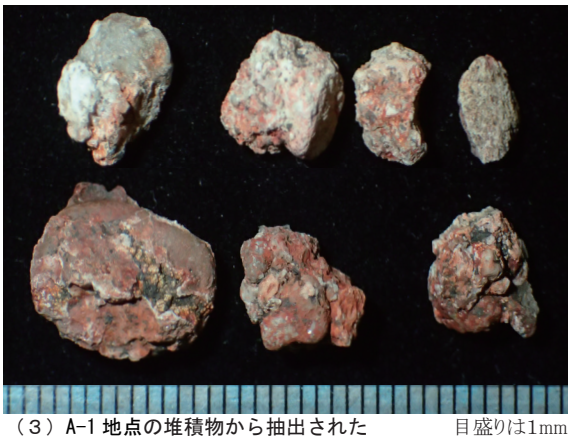
７層（Ts2）は 7a 層が Unit１、7b 層が泥質の Mud drape、7c 層 Unit２に相当する。８層（旧表土）は 7c 層に侵食されている。7c 層底面は凸凹で、偽礫を含み、ラミナ状をなす。7a 層上部から６層津波堆積物二次堆積層に漸移する。

①袖の浜地区 A-２地点層位剥ぎ取り詳細

（１）A-1 地点の堆積物サンプルから抽出された脊椎動物遺体

1．タイ科顎骨（前上顎骨または歯骨），2．タイ科？歯，3．硬骨魚類（真骨類）鰭棘

（２）A-1 地点の堆積物中および現在の海岸に打上げられていた貝類



（３）A-1 地点の堆積物から抽出された白色物質の付着する“焼け礫片”　Ⅴ層（サンプル②）　目盛りは1mm

②袖の浜地区 A-１地点の自然遺物ほか